

## 日本NGO連携無償資金協力 中間報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	協同組合の発展を通じた女性のエンパワメント
(2) 事業内容	<p><u>イ) 協同組合の運営・立ち上げ</u></p> <p>2村にて組合を設立した。ラックスマンカティ村においては、メンバーによる組合形成が進められていたため、今後は組合として活動していくことを確認した(組合員数22人)。シハンガル村においては、組合設立に向けた会合を村民と共に実施し、組合員による活動が始まっている(組合員数11人)。</p> <p><u>ロ) 協同組合員の能力強化</u></p> <p><b>【ショールームの運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組合より選出された組合員が常時ショールームに滞在し、顧客への対応、販売時の金銭の受け渡し、帳簿管理を行なっている。特に4月のバングラデシュの正月には多くの村人が訪れ、洋服やガムサ(バングラデシュの手ぬぐい)を購入した。ショールームでの販売実績は、毎月の組合会合にて報告し、お客様のコメントを共有している。ショールームは、組合員が収入を得るだけでなく、接客ノウハウを学び、縫製・デザインなどのフィードバックを得るなどの場となっている。</li> </ul> <p><b>【ノウハウの普及を目的としたワークショップの開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の3村の組合員が集まり、組合員設立までの経緯、地域との関係性、その過程での課題や解決策、自身が感じた変化などを議論した(参加者30名)。その内容を、新規2村へ共有することで、組合設立のプロセスとノウハウを共有した(参加者40名)。また既存3村の組合員にとっては、過去を振り返ることで今までの歩みや変化を言語化する機会になり、多くの気づきがあった。それらの内容をもとに、①組合員・村人・地域行政・近隣NGO等に組合活動を知ってもらうための冊子、②今後の組合設立に向けたマニュアル冊子の2種類の冊子制作を予定している。</li> </ul> <p><b>【リーダーの育成を通じた組合運営能力の強化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各組合より2~4名、計15名のリーダーを選出した。選出に際しては立候補者へインタビューを行い、リーダーを決定した。</li> <li>・リーダーへ向けて、2月、5月に組織運営に関するワークショップを実施し(15名、各3日間)、「組合の意義、リーダーの果たす役割、組織運営の基礎、課題解決、ファシリテーション、コミュニケーション」といった内容を学んだ。各ワークショップの後にはリーダーから他の組合員へ内容を共有し、リーダーの振り返りと他のメンバーへの知識提供を行なっている。</li> <li>・組合を持続的な活動とするため、各村1名ずつ、コミュニティ・ウォッチ・グループの推挙を得て村民の中からアドバイザーとなる男性を立てた。組合会合に出席して議論に参加したり、組合員の相談にのってもらうなど、組合との連帯を築いている。</li> </ul>

	<p>【スキルアップトレーニングの提供】</p> <p>外部より講師を招いて、トレーニングを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーへ向けて、4月にビジネススキルの習得として、マーケットリサーチ・原価計算・在庫管理・品質管理・マーケティングに関するワークショップを実施した(17名、2日間)。特に原価計算・直接費・間接費などの会計に関する知識を学び、現在はショールームなどで販売する洋服に関して、組合員自身が原価計算を行えるようにトレーニングを実施している。</li> <li>・縫製を行なっている組合員へ向けて、3月、5月にスキルアップトレーニングを実施した(20~25名、各3日間)。組合員の希望を聞きつつ、季節的なフェスティバルにて販売できるようになるため、子ども服のデザイン、様々な襟ぐりデザインを学んだ。5月にはバッグ製作やジッパー付けなどのトレーニングを実施した。</li> <li>・機織りを行なっている組合員へ向けて、3月にトレーニングを実施した(8名、2日間)。糸の扱い方、縦糸の張り方、織り機の細かい調整方法などを学び、インストラクターに頼らずに織り機を扱う技術を習得した。</li> </ul>
(3) 達成された効果	<p>(イ) 協同組合の能力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2村にて協同組合が立ち上がり、既存の3村からの経験を踏まえて活動を展開している。(5村計90名)</li> <li>・各組合より計15名のリーダーを選出し、組織運営2回やビジネススキル1回のワークショップを実施した。学んだ内容は、通常の活動の中で実践し、学びを深めている。</li> <li>・自身が製作した洋服に対して原価計算を行なっている(約45人)。金銭感覚だけでなく、商品が売れることで資材費・工賃・組合運営資金が生じることへの理解が進んでいる。</li> <li>・スキルアップトレーニング(延べ60人参加)により技術が高まり、インストラクターに頼らずに商品製作ができるようになった。村人へ商品を販売することで、工賃を手にする組合員が増えている。</li> </ul> <p>(ロ) 女性のエンパワメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ中のプレゼンテーションが臆することなくできるようになった。組合会合ではリーダーが司会進行を担っている。ワークショップや組合会合全般において、組合員からの発言や提案が多く見られ、積極的な行動が増えている。</li> <li>・スキルアップトレーニングにより技術に自信が付き、新規組合員や職業訓練生へ自発的に教える姿勢が出てきている。</li> <li>・組合活動が始まった後に生じた変化として、「女の子でも稼ぐことで家族に尊敬してもらえるようになった」「夫や夫の両親に頼りにされるようになった」「村や市場で臆することなく話ができるようになった」といった発言が多く聞かれ、収入があることによる自尊心・自信の高まりが感じられる。</li> </ul>

(4) 今後の見通し	<p>これまで、事業の進捗は概ね予定通りである。</p> <p>今後も予定されているワークショップを実施しつつ、ワークショップにて学んだ内容を組合活動に組み込んで行く(マーケットリサーチを学んだ後、マーケットにて顧客ニーズ調査を行い、その結果を反映させた商品作りを行う等)。また CWG を招いて持続可能な組合活動についてディスカッションを行う等、啓蒙活動を実施する。これらを通して、商品制作だけでなく、組合組織体制・運営方法に関する理解を深め、組合員自身の手で組合活動の基盤を作り上げられるようになってほしいと考えている。</p> <p>ただ、今後の活動が順調に実施できるかは、次項の特記事項を参照されたい。</p>
------------	---